

平成31年度 山口県立周防大島高等学校(久賀校舎)領域別自己評価表 校長 松本 弘美

1 学校教育目標									
<p>燦(さん)として輝き、熱誠(ねっせい)こめて社会の力となる人材の育成 ～他者とのつながりの中で磨く、総合的な人間力～ 総合的な人間力: 至誠一貫(しじやういつくわん)・まごころ・夢・理想・志・チャレンジ精神・起業家精神・忍耐力・粘り強さ(ねばりかた) 等) 自主自立(じゆんじりつ) (思考力・判断力・表現力・行動力・責任感・規範意識・自己肯定感・地域肯定感 等) 友愛協働(ゆうあいきやうたう) (親しみの情・福祉の心・思いやり・優しさ・協力的性・協調性・連帯感・信頼感 等)</p>									
2 現状分析									
<p>当面取り組むべき課題として、次のことが挙げられる。 教 務: 介護福祉士国家試験の合格に向けて、目標を意識しながら生徒が主体的に学ぶ態度の醸成、授業評価を活用し「わかる授業」の更なる推進 進路指導: 進路支援の更なる充実と介護福祉士としての就職や上級学校(大学福祉系学部への進学等)進学などの進路実現、高い進路意識の持続 生徒指導: 生徒が社会の一員として責任と自覚をもって行動することができる積極的な生徒指導の実践 いじめ防止: 未然防止、早期発見及び早期解決のための情報共有と組織的な取組の充実 福 祉: 介護実習に向けてきめ細やかな指導と確かな知識・技術を身に付けられる専門的な教育活動の充実 業務改善: 2校舎間の情報共有と少人数組織のメリットを活かした効率的な業務遂行、時間外業務時間の縮減推進</p>									
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題									
<p>○重点目標 (1)主体的な学習を促し、確かな学力を育成する学校づくり (2)他者とのつながりを深め、健やかな心と体を育成する学校づくり (3)地域と連携し、介護現場のリーダーを育成する学校づくり ○生徒チャレンジ目標 『Be a professional』 ～専門的知識を学ぶ者として互いに切磋琢磨し、学びを地域に展開できる学校へ～</p>									
4 自己評価									
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	(評価基準の達成度)	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者評価			
教 務	・生徒が明確な目標やめあてをもって主体的に学ぶことのできる授業づくり ・「わかる授業」の学習指導の工夫と充実	・実習を中心として、科目を横断してアクティブ・ラーニングなどのグループ活動や、主体的・対話的な活動を積極的に取り入れ、明確で適切な評価をすることで福祉・介護の専門的な力を身に付ける。 ・小テストなど種々の指標で生徒の定着の度合いを把握し、手当てする	4. 授業評価アンケートで「目標やめあてを意識して授業に取り組む主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が9割以上である。	4	【成果】 授業評価アンケートにおいて、「目標を意識して主体的に学ぶ」の肯定的割合が1%と非常に高い。学校評価アンケートにおいても学習指導に関する4項目の肯定率は、生徒・保護者とも全て100%である。授業では、積極的にアクティブ・ラーニングの手法を取り込み、生徒同士で意見の交換や共有を図る対話を行っている。それにより、互いの学習に対するモチベーションを刺激し、多くの生徒は主体的な学習姿勢が保たれている。 【課題】 学習内容の専門性が高まるほど、資格取得の目的を失うと学習意欲の低下が顕著にみられやすく、学校生活の継続も難しくなる危険性も高い。 【今後の取組】 学習意欲低下の傾向にある生徒を見落とさず、個別の対応や手当てを確実にし、全生徒が学校生活に目的をもち、主体的な学習姿勢や意欲の向上を図っていく。	・授業内容は良いという評価であり、今後とも取組を期待する。教員の授業力の更なる向上をお願いする。 ・生徒がモチベーションを高く持って学びに向かっていることは素晴らしい。 ・引き続き、意欲の低下する生徒へのケアをお願いする。			
			3. 「目標やめあてを意識して授業に取り組む、主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が6割以上である。				3	【成果】 生徒一人ひとりに応じた面談等の個別指導を行い進路指導の充実を目指した。進路に向けて学年と連携し、進路面談を実施した。また、就職試験に向けて進路の日を行い、介護福祉士国家試験模試を実施した。これにより、生徒の進路希望に対応し、進路意識を高めることができた。 【課題】 課題としては、今後、2年生では、進学から就職への進路変更による進路未決定者の進路決定に向けた更なる取組とサポートが必要である。 【今後の取組】 ○1年生に進路希望調査を実施して来年度に向けて進路意識を高める。 ○大学等への進学への取組が必要な生徒へは、個別に対応を図る。	・進路の決定には、本人自身の迷いも生じるので、引き続き、面談等の十分な支援、サポートを期待する。
			2. 「目標やめあてを意識して授業に取り組む、主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が4割以上である。						
1. 「目標やめあてを意識して授業に取り組む、主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が4割未満である。	3	【成果】 学校評価アンケートでは「他者を尊重する言葉遣いや礼節規則を遵守する態度」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 3. 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 2. 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 1. 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	・健康の自己管理能力の向上にさらに取り組んで欲しい。 ・アンケートの評価の肯定率が高いとは素晴らしいことである。 ・生徒同士の間では課題が見えていると思われる。						
・生徒一人ひとりの希望に沿った進路指導の充実と希望進路の実現				・面談等で生徒の進路希望を把握し、介護福祉士国家試験模試や課外などを実施することで進路意識を高め、個々の進路実現を図る。 ・進路情報提供の充実を図る。	4. 学校評価アンケートで「充実した面談や個別指導」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 3. 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 2. 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 1. 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	【成果】 生徒一人ひとりに応じた面談等の個別指導を行い進路指導の充実を目指した。進路に向けて学年と連携し、進路面談を実施した。また、就職試験に向けて進路の日を行い、介護福祉士国家試験模試を実施した。これにより、生徒の進路希望に対応し、進路意識を高めることができた。 【課題】 課題としては、今後、2年生では、進学から就職への進路変更による進路未決定者の進路決定に向けた更なる取組とサポートが必要である。 【今後の取組】 ○1年生に進路希望調査を実施して来年度に向けて進路意識を高める。 ○大学等への進学への取組が必要な生徒へは、個別に対応を図る。	・進路の決定には、本人自身の迷いも生じるので、引き続き、面談等の十分な支援、サポートを期待する。		
・良好な人間関係を築き、社会規範を遵守する態度の育成				・介護実習や生徒の活動・行事を通じて、他者を思いやる言動を促し、立場や場面に応じた言葉遣いや礼節、規則を遵守する態度を養う。	4. 学校評価アンケートで「他者を尊重する言葉遣いや礼節規則を遵守する態度」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 3. 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 2. 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 1. 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	【成果】 各教科の授業や実習に向けての取組を通して介護の専門職としての意識や他者への思いやりについての理解は進んでいる。社会に出た後も必要となる言葉遣いや礼節についても状況に合わせて対応も身についてきている。 【課題】 クラスメイト間の会話や他者への言動について、普段の学校生活の中で自己中心的な振る舞いなどが時々見られることがあり、実践はまだ不十分であるといえる。また、携帯電話の校内使用マナーの乱れが見られる為、引き続き指導を行う必要がある。 【今後の取組】 その場合わせた言葉遣いや礼節について引き続き指導を行う。 情報モラル教室の活用や、普段からの携帯電話の使用マナーについて指導を行う。特に、休み時間について、次の授業・学習への取り組みへの影響を考えさせ、専攻科生として目的ある学校生活を送る事が出来るよう指導する。	・少人数の中での授業中の規律や人間関係の保持はより大切だと思ふ。 ・自分の立ち振る舞いが正しいかどうか、社会的価値が得られるかどうかは本人の意識を高められるかどうかにかかってくる。「法にかなうか」「理にかなうか」「情にかなうか」の3点から自分の行を見つめさせると良いと思ふ。 ・コミュニケーション能力の向上に取り組んで欲しい。		
・心身の健康や安全に関する自己管理能力の育成	・教員と連携し、健康・安全な生活を維持・向上させていくマネジメント能力を高める。 ・スクールカウンセラーとの連携や教育相談活動を通じて、心の健康の維持・向上させる能力を高める。	4. 学校評価アンケートで「健康維持のマネジメント能力」「教育相談活動」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 3. 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 2. 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 1. 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	【成果】 学校評価アンケートでは「心身の健康や安全や生活を主体的に維持することができる」の質問項目の肯定率は生徒:85.7%、保護者:89.3%であった。また「教育相談活動」の質問項目では生徒:92.8%、保護者:86.6%と高い評価を得ることができた。 【課題】 課題として、心に不安を持つ生徒やコミュニケーションが苦手な生徒への継続した教育相談活動や「健康維持のマネジメント能力」を更に高め、自律した健康管理が必要である。 【今後の取組】 「健康維持のマネジメント能力」を更に高め、自律した健康管理が必要である。 「教育相談活動」1学期と同様の教育相談活動を継続し、全教職員で生徒の心身のサポートをする。	・健康の自己管理能力の向上にさらに取り組んで欲しい。 ・アンケートの評価の肯定率が高いとは素晴らしいことである。 ・生徒同士の間では課題が見えていると思われる。					
いじめ防止	・いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための組織的な取組の充実	・定期的なアンケートの実施。 ・いじめはげつたに許さないという毅然とした指導を様々な場面で取り組む。 ・いじめ対策委員会と教育相談委員会を定期的に実施し、生徒が抱える課題について教職員が協同して実践する事項を検討し、周知徹底する。	4. 学校評価アンケートで「ホームルームでの面談や支援が適切に行われており、いじめの未然防止、早期発見および早期解決に学校は組織的に取り組んでいる」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 3. 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 2. 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 1. 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	【成果】 学校評価アンケートでは「ホームルームでの面談や支援が適切に行われており、いじめの未然防止、早期発見および早期解決に学校は組織的に取り組んでいる」の項目の肯定率は生徒:85.7%、保護者:78.6%であった。 【課題】 教員の同項目の肯定率は100%であり、今後も様々な場面でいじめに対する取組を続けて、いじめは許されない行為であるということを発信し続ける必要がある。また、日ごとの言葉遣いや注意する必要がある。 【今後の取組】 夏休み前に、生徒に対してSCによる心の健康講話を実施し、SO Sの出し方を研修した。今後もSCの機能を活用していきたい。また、学校生活アンケートや面談を定期的に行いいじめの未然防止に努めたい。	・取組は良いと思われる。いじめに対する認識は高く、教員の態度も高くはらいたいと思ふ。 ・引き続き、面談等必要な支援を行って欲しい。				
福 祉	・確かな知識技術を身に付けられる専門的な教育活動の充実	・学校内で生徒の習熟度に応じた個別指導を行い、介護実習で個別ケアの実践に触れる中で、福祉現場に必要なとされる基本的な姿勢や実践的な知識、技術の修得を図る。	4. 授業評価アンケートで「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が9割以上である。 3. 「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が6割以上である。 2. 「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が4割以上である。 1. 「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が4割未満である。	【成果】 授業評価アンケートでは、「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」の質問項目の肯定率が88%であった。特に生活支援等の実技系の科目では、個々に実践的な指導が行われた。その結果、生徒に福祉の実践的な知識や技術が身に付いている。 【課題】 介護現場では実際の介護を行う際に必要とされる実技の技術や知識以外に、医療的な知識や社会福祉全般に関する制度・政策、社会保険制度といった知識の習得も必要となる。そのため、今後、介護福祉士国家試験に向けて、生徒が苦手とする実技以外の科目においても学習指導をさらにきめ細かく進めていく必要がある。 【今後の取組】 ○新卒を活用することで、福祉に関する基礎的な知識の定着を図る。 ○介護実習や実技科目で学んだことを再度、座学の授業の中で振り返ることによって、実践と知識の統合と定着を図る。	・少人数できめ細かい指導がなされている。 ・資格取得及び介護現場での仕事ができる指導教育がなされていると思ふ。 ・教職員が身ともに健康であるように、更なる取組を行って欲しい。				
業務改善	・見通しを持った計画的な業務遂行と効率的な業務整理 ・時間外業務時間の縮減推進	・福祉専攻科の年間行事の見直し、計画的・効率的な会議の運用、ノー残業デーの設定、日常業務の効率化の推進などから、時間外勤務の削減を図る。 ・考査期間や長期休業中の行事や会議に配慮する。	4. 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が9割以上である。 3. 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が6割以上である。 2. 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が4割以上である。 1. 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が4割未満である。	【成果】 教職員によるアンケートでは、業務改善については肯定率8割である。負担感の軽減は図れているとみられる。 【課題】 業務時間の削減については、あまり効果の出ている部分がある。生徒の介護実習期間をノー残業ウィークとして業務時間の削減をめざしたが、この期間にこそ日頃たまっている業務を片付けようという傾向も見られた。 【今後の取組】 細かな積み重ねで改善を行う。	・勤務時間を正確に把握する努力が認められる。 ・業務改善に向けた努力が見られ、さらに高みをめざそうとする姿も見られる。 ・教職員が身ともに健康であるように、更なる取組を行って欲しい。				
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題									
<p>今年度は、「主体的な学習を促し、確かな学力を育成する」「他者とのつながりを深め、健やかな心と体を育成する」「地域と連携し、介護現場のリーダーを育成する」を重点的に取り組んだ。学校評価アンケートにおいて、生徒・保護者とも、おおむね80%以上の肯定的な評価を得ることができた。</p> <p>【学習指導】 教員が授業の目標やめあてを明確に授業で提示することで、生徒も目標をもって主体的に学ぶ態度が身に付いた。授業評価も9割以上の生徒が主体的に学ぶことができたと答えている。 【進路指導】 面談や進路指導を通じて情報を生徒・保護者に提供することで進路決定に繋げることができた。また、ハローワークなどの外部機関から講師を招聘し、時機を得た講話を実施することができた。さらに、介護福祉士資格取得に向けては、国家試験対策模試や課外を行い個別指導するなどして力を付けることができた。大学編入についての意識を高め、十分な情報提供をしていくことが課題である。 【生徒指導】 生徒のマナーや言葉遣いについて、生徒の自覚が見られ、概ね良好であった。今年度からクリーンウォーク(地域清掃活動)をはじめ、町内の方から感謝の声をいただいた。今後も続けていきたい。また、心身の健康においては、個別の相談活動を継続することで自己管理のスキルが次第に高まっている。 【いじめ防止】 4月の対面式直後にアイスブレーキングを行い、仲間意識の高揚を図った。定期的なアンケート調査でもいじめとみられるもの、その兆候も見受けられなかった。スクールカウンセラーによる心の健康講話では「アンガーマネジメント」と「SOSの出し方」をテーマに開催し、生徒からは好評であった。 【福祉】 介護実習に向けて、事前・事後の指導を計画的に行うことで、現場における生徒の学びを深めることができた。小中学生福祉体験では、昨年度より多くの学校から参加をいただき、好評を博した。専攻科生にとつて、小中学生に教えることは、自らの学びを深める絶好の機会となっている。実習の発表会や地域実践の発表会では、地域の民生委員の方々の参加も多かった。学びを地域に発信することができた。 【開かれた学校づくり】 Facebookでの情報発信は、不定期ではあるが、昨年度より大幅に増やした。また、「今日の福祉専攻科」は久賀公民館に掲示コーナーをつくっていただくなど、地域での福祉専攻科の広報にも努めた。地域開放講座を兼ねた第3回オープンキャンパスの持ち方が課題である。 【業務改善】 業務改善が進んだという職員の割合は8割となったが、職員の業務時間を減少させることができなかった。今年度の気づきをもとに更に改善を進め、細かな改善の積み重ねから教員の負担感の軽減を図る。</p>									
6 次年度への改善策									
<p>【学習指導】 アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、主体的に学ぶ姿勢を育成する。国家試験に向けた応用力と現場での実践力の育成を進路指導課と共に組織的に展開する。授業評価を活用し「分かる授業」をさらに推進する。 【進路指導】 日々の努力の継続を図るよう、タイミングを見て効果的な行事を計画する。学校全体でより組織的な対応を図る。大学進学(3年次編入)をめざす者には早期の進学対策を実施する。 【生徒指導】 良好な人間関係を保ちながら、心豊かに人生を送るため、生徒の自主性・創造性を学校行事を通じて開発していく。家庭との連携、スクールカウンセラーとの連携を円滑に行い、必要な外部機関との連携を構築できる体制づくりを行う。 【いじめ防止】 いじめ防止基本方針を見直し、より実効性のあるものとする。いじめは絶対に許されない行為だと言ふことを発信し続ける。 【福祉】 習熟度に応じた個別指導を充実させる。地域に根ざした専門教育を推進するため、これまで以上に地域の社会福祉団体や社会福祉施設との連携を深める。 【開かれた学校づくり】 web上での情報発信、「今日の福祉専攻科」による情報発信など福祉専攻科の広報をより充実させる。地域開放講座を工夫し、集客力を高める。 【業務改善】 時間外業務の削減を年度当初から掲げ、業務改善を推進する。業務改善のための小さな気づきを大切に、教員の負担感の軽減を図る。生徒の目標達成が、教員にとっての意欲の原動力になっている面も考えながら、メンタルヘルス、代休・年休の計画的消化などにも取り組む。</p>									